

2026▶2035

# 第2次伊豆市環境基本計画

伊豆市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）

伊豆市気候変動適応計画

概要版



伊豆市

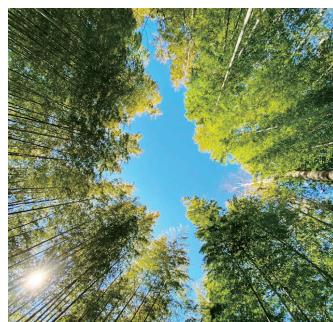
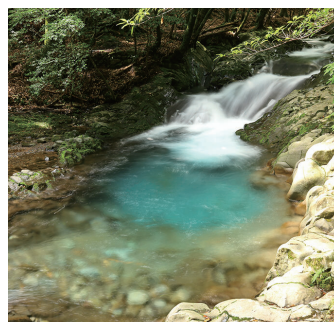
# 1 環境基本計画とは？

## 伊豆市の豊かな環境を未来へつなぐために

本市は、天城連山や狩野川、駿河湾といった豊かな自然の恵みを受けて発展してきました。しかし、人間の活動によって環境への負荷も大きくなり、今では気候変動など、地球規模で深刻な問題として現れています。

私たちの未来を持続可能なものにするためには、環境の価値をしっかりと理解し、その保全と創造に向けた取組を、みんなで力を合わせて進めていく必要があります。

伊豆市の未来に向けて、みんなで何ができるか考えてみましょう！



## 伊豆市の環境行政の動向

本市は2014(平成26)年12月に「伊豆市環境基本条例」を施行し、2016(平成28)年3月には「伊豆市環境基本計画」を策定するなど、環境保全に向けた取組を進めてきました。その間には、「伊豆市ゼロカーボン戦略」の宣言、「クリーンセンターいず」の稼働など、環境行政における大きな進展がありました。

しかし、環境基本計画の策定後も地球温暖化はさらに進行し、気温上昇や生態系の変化、熱中症の健康被害など気候変動による影響が現れています。こうした状況を踏まえ、新たに「第2次伊豆市環境基本計画」(以下、本計画という。)を策定しました。



◀「伊豆市ゼロカーボン戦略」の宣言  
(2022年6月)

「クリーンセンターいず」の稼働  
(2023年1月)



## 市・市民・事業者・滞在者の行動指針

本計画は、市・市民・事業者・滞在者が協力して本市の環境問題に取り組むための行動指針です。将来の目標や数値目標、具体的な取組内容を示しており、この計画を基にみんなで力を合わせて環境を守っていきましょう。

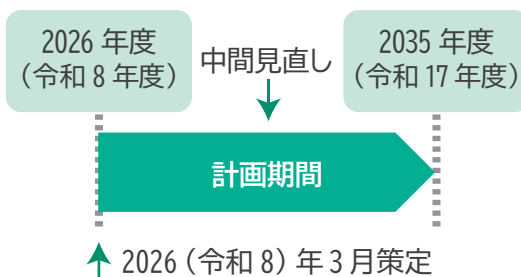
環境基本計画には、温室効果ガスを減らすための「地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」、気候変動による影響を減らすための「気候変動適応計画」の2つの計画も含まれています。



## 今後10年間の計画

計画期間は2026(令和8)年度から2035(令和17)年度までの10年間です。

また、計画(Plan)を実行(Do)し、その結果を点検・評価(Check)したうえで改善・見直し(Act)をする「継続的な改善」により、目標の達成に向けて着実に進捗を管理していきます。



## 2 伊豆市の環境の現状は？

### 環境の 特徴

伊豆市の環境には、  
いいところがこの  
ほかにもたくさん  
あります。



#### ● 広大な森林

市域面積の約 8 割を占める  
広大な森林は、豊富な水資源  
を蓄えるとともに、二酸化炭  
素の吸収源としても重要な役  
割を果たしています。



#### ● 地域固有の貴重な生物

イズカニコウモリ、アマギ  
ツツジなど伊豆半島に固有の  
生物や、静岡県レッドデータ  
ブックに記載された絶滅危惧  
種が多く確認されています。



#### ● 天城山・狩野川・駿河湾のつながり

天城山から狩野川、そして  
駿河湾へとつながる豊かな自  
然環境は、市民の暮らしや産  
業の源になっています。



#### ● 世界農業遺産と世界ジオパークの認定

「静岡水わさびの伝統栽  
培」が世界農業遺産、「伊豆  
半島ジオパーク」がユネスコ  
世界ジオパークに認定されて  
います。



#### ● 学びのフィールドの多さ

本市の豊かな自然環境を活  
かした環境教育・環境保全活  
動が活発に行われています。



### 環境の 課題

どれも大きな課題  
ですが、少しずつ  
改善していきま  
しょう！



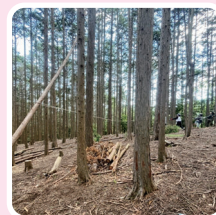
#### ● 野生鳥獣による被害

ニホンジカ、イノシシ、カワウ  
などによる農林産物への被害  
額は年間3,000万円に上ります。  
農林業の衰退や自然生態系へ  
の影響が懸念されています。



#### ● 森林の適正管理

人工林の大部分は、植林後  
50 年を経過して間伐や再造林  
など森林の世代交代を行う時  
期にあり、木材の利用促進も必  
要です。



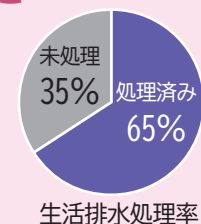
#### ● ごみ排出量の多さ

1人1日当たりのごみ排出量  
(998g)は、観光客の多さも影  
響して、全国(851g)や静岡県  
(807g)の平均よりも多くなっ  
ています。



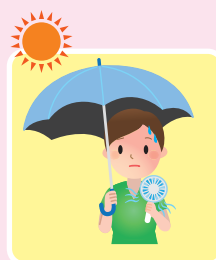
#### ● 生活排水処理率の低さ

本市の生活排水処理率(65%)  
が静岡県の平均(82%)を大き  
く下回っており、まだ一部の  
生活排水が未処理のまま放流  
されています。



#### ● 気候変動への適応

気候変動に伴う気温上昇に  
より、自然災害、農作物、生態  
系、健康などへの影響に対す  
る適応が必要となっています。



# 伊豆市の将来の環境は？

望ましい  
環境像

## 天城の森から駿河湾へ みんなで未来へつなぐ 自然豊かなまち 伊豆市

天城の森から狩野川の清流、そして駿河湾へとつながる本市の自然環境は、私たち市民の暮らしや産業を支える源となっています。

市民一人ひとりが主役となり、自然の恵みを大切にしながら環境と共生することで、誰もが幸せに感じられる質の高い暮らし（ウェルビーイング）と持続可能な未来を目指します。



基本目標 1 自然と共に生きるまち



基本目標 2 安全安心で快適なまち



基本目標 3 資源を大切にするまち



基本目標 4 脱炭素を実現するまち



基本目標 5 環境を守るために取り組むまち

合併浄化槽の普及



次世代自動車の普及

エコドライブ

環境の回復・創出

自然観察会の実施

生物多様性の保護地域の拡大

河川や海岸の保全・管理

貴重な生物の保全

省エネルギー行動

自然災害対策

不法投棄対策

空き家の環境対策



0 1 2 km

望ましい環境像を実現するために  
5つの基本目標を設定しています。



# どんな取組をするの？

10年間の取組の方向性を示しています。



## 基本目標1 自然と共に生きるまち



市域の約8割を占める森林の保全、河川・海の生態系に配慮した管理を進めます。また、野生鳥獣による被害対策や生物多様性の維持に取り組み、自然とふれあえる機会を創出します。



### 山・川・海の保全と管理

- ① 効率的な森林経営と担い手を育成します
- ② 森林の保全と利用を進めます
- ③ 農地を保全・管理します
- ④ 河川や海岸を保全・管理します

市有林森林施業面積  
(累計)

2024年度 → 2025年度  
456ha → 786ha



### 生物との共生・自然とのふれあい

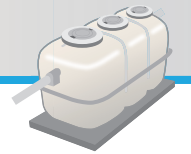
- ① 貴重な生物の保全と外来種の対策をします
- ② 野生鳥獣への対策をします
- ③ 自然とのふれあいを促進します
- ④ 生物多様性を保護する地域を増やします

自然観察会の開催数

2024年度 → 2025年度  
2回/年 → 5回/年



## 基本目標2 安全安心で快適なまち



河川や海の水質調査、下水道や浄化槽整備、事業排水の監視で水環境を守ります。さらにエコドライブや次世代自動車の普及、騒音・空き家対策を進めます。



### 生活環境の保全

- ① 水質を調査・監視します
- ② 生活・事業排水をきれいにします
- ③ 大気汚染・騒音の対策をします
- ④ 空き家周辺の環境対策をします

生活排水処理率

2024年度 → 2025年度  
64.8% → 78.5%



## 基本目標3 資源を大切にすまち



ごみ減量講座やマイバッグ運動、生ごみ処理補助、粗大ごみリユースなどでごみの排出削減とリサイクルを推進します。不法投棄の監視も強化し、適正な廃棄物処理を促進します。



### ごみの減量・再利用・資源化

- ① 3Rの推進でごみを減らします
- ② ごみを適正に収集・運搬・処理します
- ③ 環境美化・不法投棄の対策をします

市民1人1日当たりの  
ごみ排出量

2023年度 → 2031年度  
998g → 930g以下

数値目標を直実に達成していきます。



## 基本目標4 脱炭素を実現するまち



電気自動車などの普及や森林管理による二酸化炭素の吸収を強化するとともに、再生可能エネルギー導入や省エネルギーの推進、気候変動への適応策を推進します。



### 脱炭素なまちづくり

- ① 地球温暖化対策を総合的に推進します
- ② エコドライブや次世代自動車を普及します
- ③ 公共交通機関の利用を促進します
- ④ 二酸化炭素の吸収を促進します

地域の温室効果ガス  
排出量削減率  
(2013年度比)

2022年度 → 2030年度  
-29.5% -46.6%



### エネルギーの有効利用

- ① 再生可能エネルギーの利用を拡大します
- ② 省エネルギーの建物・設備を普及します
- ③ 省エネルギーの行動を実践します

再生可能エネルギー  
電力比率

2023年度 → 2035年度  
41% 57%



## 基本目標5 環境を守るために取り組むまち



市民の環境意識向上を目指し、環境講座などの教育を充実します。また、インターネットや広報誌での情報発信や、市民・事業者・滞在者の環境保全活動を支援します。



### 環境教育等の推進

- ① 意識向上の呼びかけをします
- ② 環境学習を充実させます
- ③ 環境活動を活発にします

環境関係の体験講座  
への参加者数

2024年度 → 2035年度  
321人/年 700人/年

みんなでできることから始めよう!



清掃活動に参加する



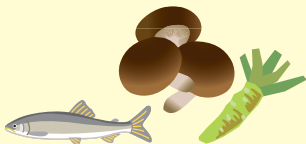
ごみを減らす



省エネ家電を選ぶ



太陽光発電を導入する



地元の農水産物を買う



食べ残しをしない



水を汚さない



環境に興味を持つ

# 気候変動への適応とは？

気候変動にどう備えていくかが重要です。



## ◆ 適応策とは








地球温暖化対策には、原因となる温室効果ガスを減らす「緩和策」と、既に避けられない影響から被害を回避・軽減する「適応策」があります。本市でも気温上昇をはじめ、気候変動による影響が既に現れていると考えられることから、気候変動に対する「適応策」を強化します。

## ◆ 適応策の推進

21世紀末には、現在よりも最大4.5℃気温が上昇すると予測されています。



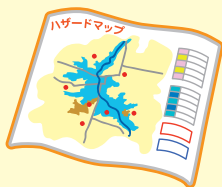
本市で取り組む主な適応策は以下のとおりです。

分野	主な適応策
 農業・林業 ・水産業	<ul style="list-style-type: none"><li>● 高温耐性品種など、気候変動に強い農産物の品種導入の促進</li><li>● 野生鳥獣の被害軽減に向けた効果的な捕獲・防除対策の強化</li></ul>
 水環境 水資源	<ul style="list-style-type: none"><li>● 国・県と連携した「流域治水」の考え方に基づく森林整備や河川整備、貯水機能の強化</li><li>● 節水啓発や地下水の効果的な利用など水資源の安定確保</li></ul>
 自然生態系	<ul style="list-style-type: none"><li>● 外来種の拡大など、生態系の変化に対応するための情報収集</li><li>● 野生鳥獣による自然生態系への影響の監視</li></ul>
 自然災害・ 沿岸域	<ul style="list-style-type: none"><li>● 洪水・土砂災害ハザードマップの作成・周知と避難訓練の実施</li><li>● 国・県と連携した狩野川水系の総合的な治水対策の推進</li></ul>
 健康	<ul style="list-style-type: none"><li>● 熱中症警戒アラートや特別警戒アラートの確実な周知</li><li>● 指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）の設置・活用の推進</li></ul>
 産業・ 経済活動	<ul style="list-style-type: none"><li>● インフラの強靱化や蓄電池の整備など、都市のレジリエンス（回復力）強化</li><li>● 気候変動が観光業へ与える影響についての調査・研究</li></ul>
 市民生活 都市生活	<ul style="list-style-type: none"><li>● 豪雨・暴風による道路等の被害に対する早期復旧及び災害に強いライフラインの整備</li></ul>

みんなでできることから始めよう！



森林整備への  
参加



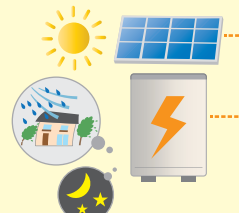
ハザードマップを  
確認する



こまめに水分を  
補給する



クーリングシェルター  
を活用する



蓄電池を導入する

伊豆市市民部環境衛生課 令和8年3月

〒410-2413 静岡県伊豆市小立野 38-2 【TEL】0558-72-9857  
【URL】<https://www.city.izu.shizuoka.jp>

詳細は計画書の本編をご覧ください。